

令和7年2月9日

第89期（令和5年10月～令和6年9月）

環境経営レポート

 鉄道機器株式会社



目次

- I 組織の概要
- II 対象範囲
- III 環境経営方針
- IV 環境経営目標
- V 第89期 環境経営計画
- VI 第89期 環境経営目標に対する実績
- VII 第89期 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
- VIII 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに苦情、違反、訴訟等の有無
- IX 代表者による全体評価と見直しの結果

I 組織の概要

1. 鉄道機器(株)会社概要

業種分類	4 ろ：機械・装置等製造業		
事務所名及び所在地	本社	東京都中央区日本橋本石町 4-6-7	
	富山工場	富山県高岡市福岡町下蓑 1151	
	大阪営業所	大阪市北区豊崎 3-20-9	
資本金	7 5 百万円		
従業員数	1 1 6 名		
敷地面積	富山工場	3 7, 2 3 9 m ²	
建屋面積	富山工場	1 2, 8 3 8 m ²	
代表者	代表取締役社長	吉田 晃	

2. エコアクション2.1 環境経営システム 代表者

代表取締役社長 吉田 晃

3. 環境管理責任者

富山工場総務課長 赤倉利之

4. 環境事務局及び連絡先

富山工場総務課長 赤倉利之 電話 0 7 6 6 - 6 4 - 3 0 6 1
FAX 0 7 6 6 - 6 4 - 2 0 6 7

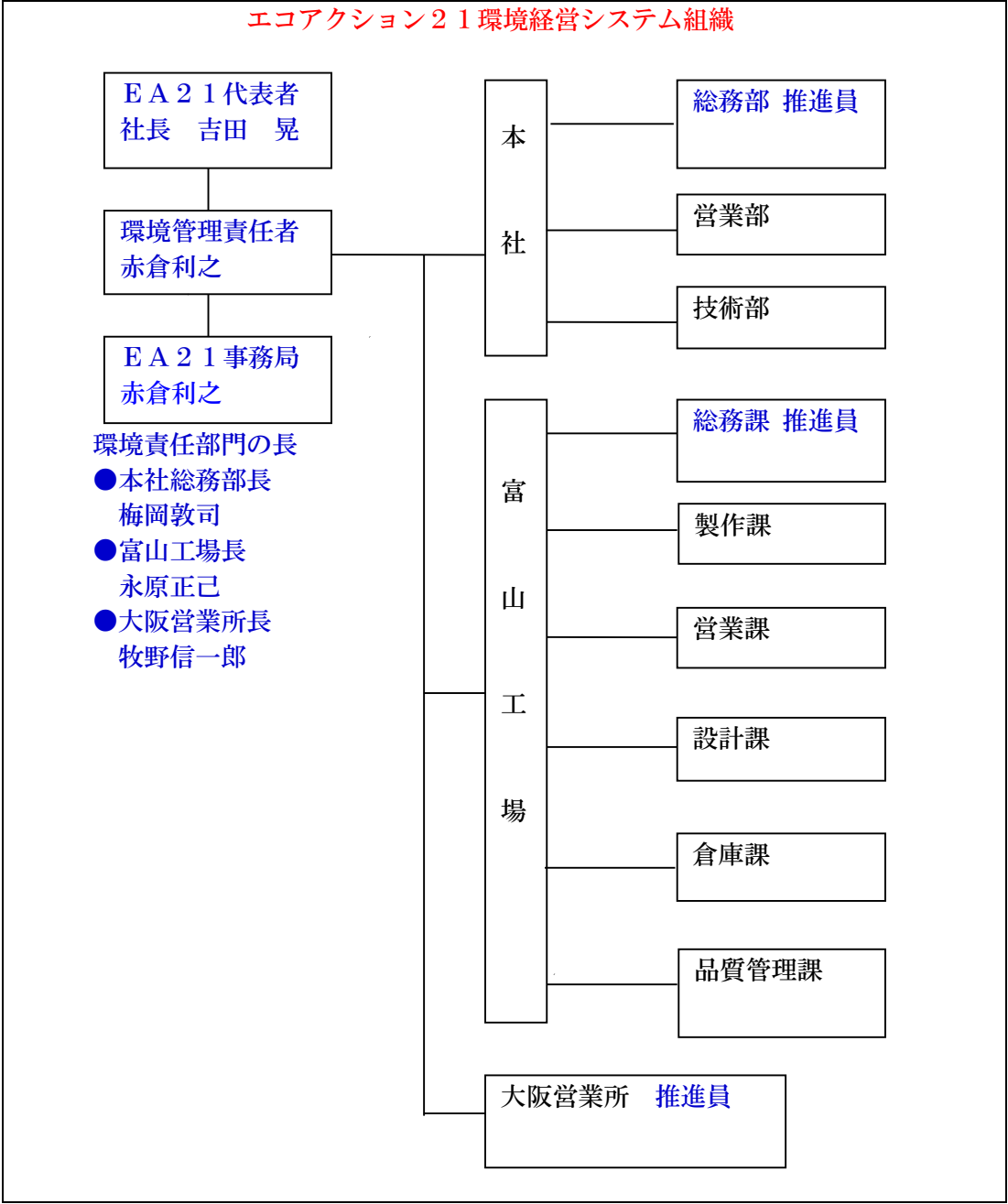
5. 事業活動

鉄道用分岐器類の設計、製造及び販売



II 対象範囲

1. 対象組織 全事業所



2. 対象活動
鉄道用分岐器類の設計、製造及び販売

Ⅲ 環境経営方針

環境経営方針

《基本理念》

私たちは、鉄道用分岐器類の設計、製造及び販売の事業活動を行うに当たって、環境管理体制を整備し、社会的責務である環境保全に積極的に取り組みます。

《環境経営方針》

1. 環境関連法規制及び利害関係者との同意事項の遵守
2. 環境保全活動の具体的展開及び継続的改善
 - ①二酸化炭素排出量の削減
 - ②廃棄物排出量の削減
 - ③水資源の節減
 - ④化学物質使用量の削減
 - ⑤環境に配慮した製品の販売
3. 本方針を実施し、維持するとともに、社員等にこれを周知する。

～環境経営レポートは社外から要求があれば開示する。

改訂 2018年10月1日
鉄道機器株式会社
代表取締役社長
吉田 晃 印

Ⅳ環境経営目標

1. 環境経営レポートの作成単位

環境負荷は、富山工場が大半（約 99%）を占めている。

2. 環境経営目標

基準は第 8 3 期実績とし、引き続き中期計画（第 84 期～第 88 期 ⇒ 第 89 期～第 93 期）として 10 年通期で 10%（毎年、年 1 % 低減）逡減を目指す。

消費原単位を**売上**とする。

8 3 期売上 2,733 百万円（基準） 8 9 期売上 3,220 百万円（DMA 売上除く）

	環境目標／消費原単位 比率	第 83 期 基準値 100%	第 88 期 前期目標 95%	第 89 期 当期目標 94%	第 90 期 次期目標 93%
①	CO ₂ 排出量の削減 Kg-CO ₂ Kg-CO ₂ ／百万円	1,122,607 410.76	390.22	386.10	382.00
②	産業廃棄物排出量の削減 Kg Kg／百万円	21,226 7.767	7.379	7.301	7.223
③	一般廃棄物排出量の削減 枚 コピー用紙使用量の削減 枚/百万円	429,225 157.05	149.2	147.63	146.06
④	水資源の節減 m ³ m ³ ／百万円	24,631 9.012	8.561	8.471	8.381
⑤	化学物質使用量の削減 kg Kg／百万円	294.06 0.108	0.103	0.103	0.102
⑥	環境に配慮した製品の販売 個 (オイル床板・ベアリング床板)	770			

注 1：目標値の CO₂ 排出量の算出に用いた購入電力の実排出係数（H28.12.27 公表）

東京電力	0.500 kg-CO ₂ /kWh	本社
関西電力	0.509 kg-CO ₂ /kWh	大阪営業所
北陸電力	0.627 kg-CO ₂ /kWh	富山工場

V 第89期 環境経営計画

1. 温室効果ガス総排出量削減（CO₂排出量の削減）

- ①効率的な生産活動による電気使用量の削減
 - ・機械設備の効率的な運用・不要時の消灯・OA機器の省エネ対応・
- ②集中作業励行によるLPG、A重油の削減
 - ・設備更新時に省エネタイプに切替　・集中鍛造の励行
- ③建屋外気との遮断に注力し暖房用の灯油使用量の削減
 - ・更新時に省エネタイプに切替
- ④効率的な運搬作業に注力し軽油使用量の削減
 - ・作業の効率化　・更新時に省エネタイプに切替
- ⑤効率的な運搬、送迎に注力しガソリン使用量の削減
 - ・作業の効率化　・更新時に省エネタイプに切替

2. 産業廃棄物排出量削減

- ①廃油排出量の削減
- ②金属クズ発生量の低減
- ③廃プラスチック発生量の削減
 - 合成まくらぎの仕損率の減少
- ④木クズ発生量の抑制
 - 購入品の梱包材の減量化
 - 木まくらぎの仕損率の減少
- ⑤その他廃棄物の削減
 - 分別の徹底
- ⑥分別基準の周知

3. 一般廃棄物排出量削減

- ①コピー用紙の使用量の節減（リデュース）
 - 両面印刷奨励、回覧奨励、印刷部数の節減
- ②排紙の裏面の活用（リユース）
- ③機密書類の溶解処理及びシュレッダーによる自前処理（リサイクル）

4. 水資源使用量節減

- ①上水道使用量の節減　　本社、大阪及び富山工場
 - 富山工場事務所は上水道使用（平成26年2月使用開始）
- ②地下水使用量の節減　　富山工場

5. 化学物質使用量の削減

- ①化学物質の含有率が少ない有機溶剤の使用の検討
- ②新たに管理対象となった化学物質については、含有の少ない材料への切り替え

6. 環境に配慮した製品の販売の促進

- ①省力化床板等の販売促進

VI 第89期 環境経営目標に対する実績

	基準及び環境目標 /消費原単位（売上） 達成状況	基準値 第83期 実績	第89期 年次目標 A	第89期 実績 b	評価 （目標値との差異） b - a ○…達成 ×…未達
①	CO ₂ 排出量の削減 Kg-CO ₂ /百万円	410.76	386.10	266.62	-119.48 ○
②	産業廃棄物排出量の削減 kg/百万円	7.767	7.301	6.170	-1.131 ○
③	一般廃棄物排出量の削減 コピー用紙使用量の削減 枚/百万円	157.05	147.63	129.37	-18.26 ○
④	水資源の節減 m ³ /百万円	9.012	8.471	9.333	0.862 ×
⑤	化学物質使用量の削減 kg/百万円	0.108	0.103	0.069	-0.034 ○
⑥	環境に配慮した製品の販売 個 （オレス床板・ベアリング床板等）	770	目標定めず	561	－ 推進中

総合評価（第89期）

- ① **達成**：目標値との差異が-119.48 Kg-CO₂/百万円
電気使用量が10期連続で減少した。（CO₂排出量の消費エネルギーのうち約6割以上が電力）
- ② **達成**：目標値との差異が-1.131kg/百万円
88期から89期にかけて木クズの廃棄量が大幅に減少した。（14,803kg→10,917kg）
- ③ **達成**：目標値との差異が-18.26 枚/百万円
88期から89期にかけて枚数は増加（253,000 枚→263,000 枚）したが、売上の増加（2,733 百万円→3,220 百万円）により目標を達成した。
- ④ **未達**：目標値との差異が0.862 m³/百万円
地下水利用について7月～9月の使用量が増加した。
7月～9月工場地下水利用（83期）6,020 m³（夏の打ち水利用なし）年間売上2,733 百万円
7月～9月工場地下水利用（89期）7,420 m³（夏の打ち水利用あり）年間売上3,220 百万円
- ⑤ **達成**：目標値との差異が-0.034 kg/百万円
88期から89期にかけて使用量は増加（155.37 kg→221.66 kg）したが、売上の増加（2,733 百万円→3,220 百万円）により目標を達成した。
- ⑥ **目標設定なし**：83期実績が770 個、89期実績が561 個

VII 第89期 環境経営計画の取組結果とその評価、次期の取組内容

1. 温室効果ガス総排出量削減（CO₂排出量の削減）

当期の取組内容

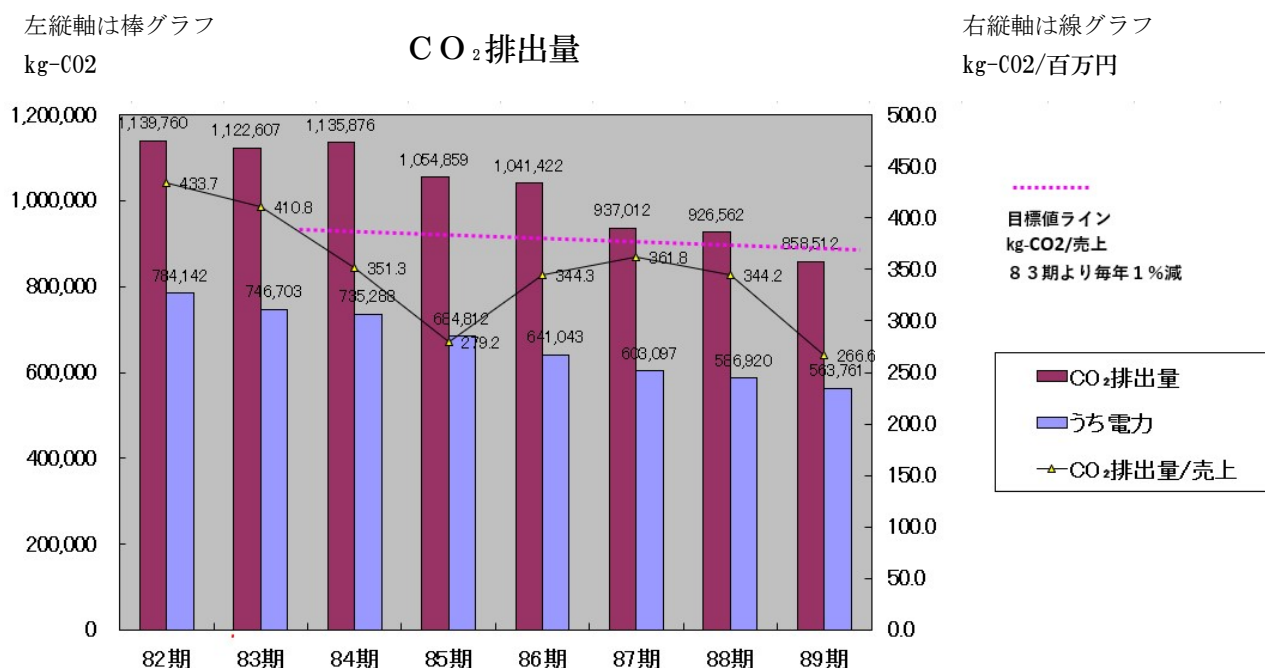
- ① 電気使用量の節減
 - ・効率の良い新型コンプレッサーを利用した。
 - ・コンプレッサー配管のエアリー漏れの修繕を行った。
 - ・事務所は不要時の消灯徹底、空調温度の28℃夏・20℃冬厳守
 - ・LED化の推進
 - ・デマンド計器を設置
- ② 化石燃料使用量の削減（製品品質に直結する化石燃料）
 - ・熱処理・溶接・鍛造作業が必要な受注対応であるが、使用量減少に努めた。
 - ・レールの熱処理工程をCO₂排出量の多いQTからCO₂排出量の少ないSQに変更した。
- ③ 化石燃料使用量の削減（製品品質に関連しない化石燃料）
 - ・冬期の建屋内への寒気遮断等によりストーブ用灯油の節約を励行した。
- ④ ガソリン用フォークリフトの使用制限
ガソリン用フォークリフトの使用制限を行い、軽油用フォークリフトを推奨した。

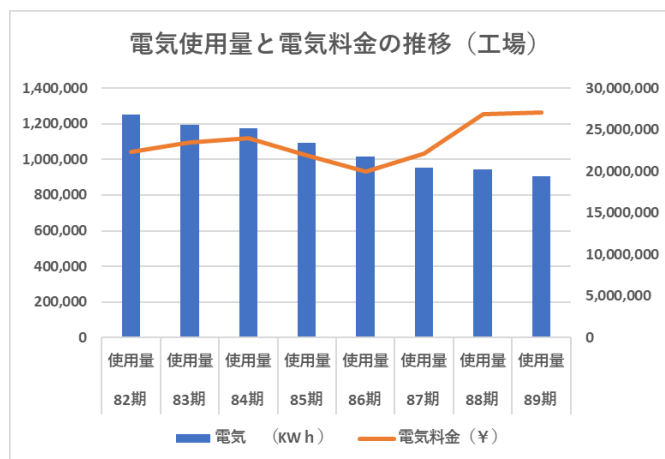
評価

- ① 2023年の新型コンプレッサー入れ替え効果は大きい。また、これまでに進めたLED化の効果により、工場使用電力量は減少した。
- ② レールの熱処理工程を変更することにより、温室効果ガスの排出量を削減した。
- ③ 灯油の使用量は前期を上回る結果となった。
- ④ 軽油の使用量は前期を上回る結果となった。

次期の取組内容

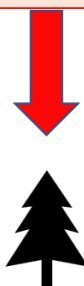
- ① 電力のデマンド計器のアラーム機能（瞬間の使用電力が増えるとアラーム）を活用し、アラームが鳴った時は、一時的にエアコン等の電源を切り、ピーク電力を抑制する。
- ② 老朽化した機械を省エネタイプに入れ替える。
- ③ ガソリン用フォークリフトの使用制限。（軽油用フォークリフトを推奨）





82期より電気使用量 ▲345,748kWh 減
北陸電力排出係数 0.627 CO₂/kWh
CO₂排出量 216t 減少

82期 電気使用量
1,252,542 kWh
89期 電気使用量
906,794 kWh



スギ人工林 1 ヘクタール（40年生1,000本）が
1 年間で吸収する二酸化炭素量は 約8.8t
（林野庁発表）
よって $216t \div 8.8t \div 24.54$ 年分相当CO₂削減

2. 産業廃棄物排出量削減

当期の取組内容

- ① 5S 活動を展開する中で「廃棄物の分別・分類及び用具保管マップ」を作成し周知。
- ② 不要な木クズ、木パレットを納入先に引き取ってもらい再利用を促した。
- ③ 発生した鋼クズを廃棄物とせず、リサイクルされる業者の引き取りとした。

評価

- ① 5S 活動により環境に対する意識が上がっている。
- ② 木クズ、木パレットの再利用により木クズの廃棄量が大幅に減少した。
- ③ 鋼クズをサイクルすることにより廃棄量が減少した。

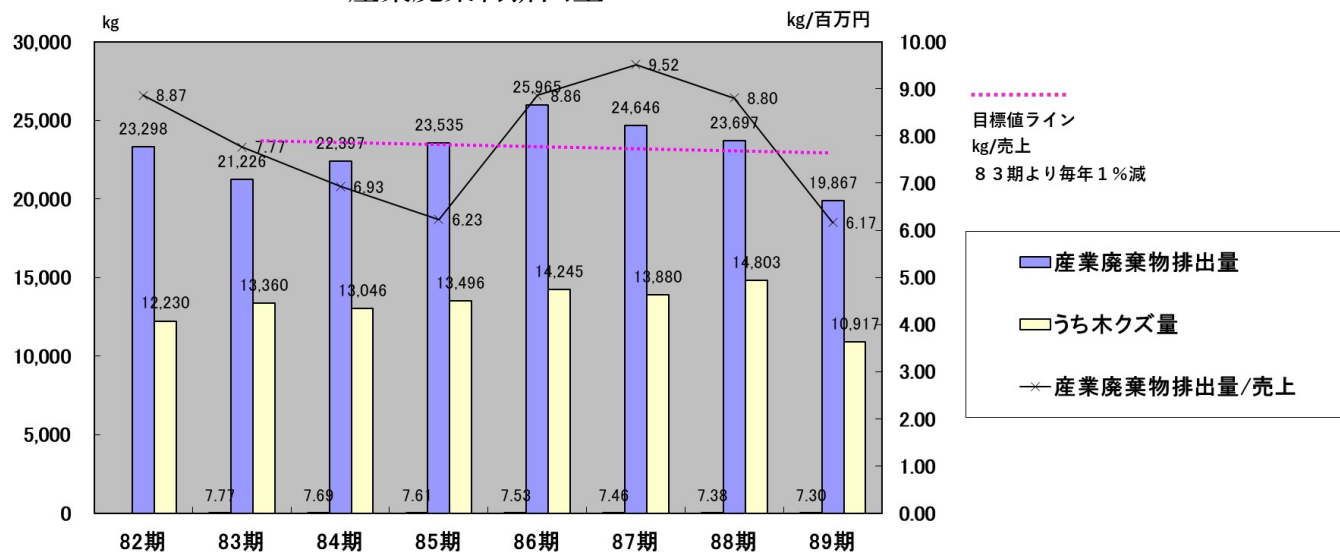
次期の取組内容

- ① 廃棄物の分別と量の削減について周知していく。
- ② 木パレット自体を当社が使い回しできるような規格・寸法に納入（梱包）業者に改善依頼していく。
また、運搬資材として再利用可能な通い性のあるものの推進。（樹脂パレット、パレティーナ（網かご）等）
- ③ 環境管理責任者がパトロールを実施し、産廃等についての状況を確認する。
- ④ 鋼クズの徹底回収によるリサイクルの推進の継続実施

左縦軸は棒グラフ

産業廃棄物排出量

右縦軸は線グラフ



3. 一般廃棄物排出量削減

当期の取組内容

- ① 印刷の裏面利用や両面印刷を推進。
- ② 保管切れ記録類の裏面利用。
- ③ 廃棄する機密文書類の溶解処理（リサイクル化）を全社展開。
- ④ 工場においては経費面も考え機密文書をシュレッダーで自前処理。
- ⑤ 電子データPDFを利用し印刷しない。回覧等もメールで行う。

評価

- ① 全社的にペーパーレス化に取り組み、なお売上増加要因もあり、目標を達成した。
- ② 社内向け文書は、排紙の裏面を利用することが定着している。
- ③ 廃棄する機密文書類の溶解処理、シュレッダーによる自前処理が定着している。（リサイクル）

次期の取組内容

- ① コピー用紙の使用量の削減は、一般廃棄物の減量化に欠かせない施策であり、全社的に引き続きペーパーレス化を推進していく。
- ② 一般廃棄物の内容調査

4. 水資源使用量節減

当期の取組内容

- ① 食器洗浄の際は水を出しっぱなしにしない。
- ② 地下水汲み上げポンプにタイマーを取り付けし、作業時間に合わせて稼働している。

評価

- ① 基準となる 83 期には工場敷地の冷却による地下水利用は行っていなかった。89 期については夏の猛暑により地下水を大量に利用した。気象要因による増加のため対応が難しい。

次期の取組内容

- ① 第 89 期と同様の取組を行う。
- ② 散水以外での猛暑対策の検討。

5. 化学物質使用量削減

当期の取組内容

- ① 納入業者と協力し、有害物質の少ない錆止めを開発。
- ② 作業方法を改善し、使用量を削減する

評価

- ① 売上増加により目標は達成しているが、化学物質の使用量は増えている。

次期の取組内容

- ① 管理対象となる化学物質の含有が少ない有機溶剤の選定を行っていく
- ② 作業方法を改善し、使用量を削減する

6. 環境に配慮した製品販売のための取組

- ① 写真（第 8 回鉄道技術展）のように、環境にやさしい製品も取扱っています。
また、鉄道事業者と協力して鉄道用分岐器の設備故障防止と省メンテナンス化を目的として棒ばねやボルトレスガードやハイブリッドまくらぎの開発を行っています。

評価

- ① 顧客の注文次第であるが、前期より販売個数は減少した。

次期の取組内容

- ① 引き続き省力化に繋がる製品の開発や省力化床板の販売に取り組む。



省力化床板とは：
ポイント転換時に底部が摺動する際の摩擦力を軽減するために開発したもの。従来品は、定期的に駅員が床板の摺動部に潤滑油を塗油しており、環境面でも好ましい影響を与えていなかった。

7. その他環境関連活動

- ① 食品ロス削減のため、コスト意識を高め工場社員の昼食の給食需要予測の正確な把握に努めている。
- ② グリーン購入の推進の継続実施。
- ③ リモート立合い検査や WEB 会議(Teams 及び Zoom を利用)、リモート接続(RemoteView)によるテレワークは人の移動に伴うCO2 排出量の抑制となっている。
- ④ 防火・避難訓練

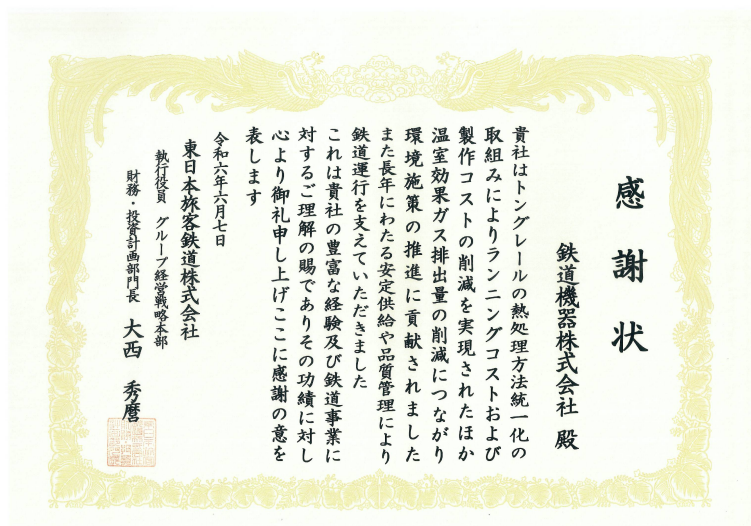


リモート立合い検査

自衛消防隊による消火訓練においては、年 4 回確実に実践している。また、引き続き工場建屋における油漏れ・危険物の流出も無きよう注力している。



- ⑤ CSR活動
工場に献血車入場し年 2 回（春・秋）社員による献血協力運動実施。
工場協会主催のフードドライブを実施し、能登半島地震の被災者に届けた。
- ⑥ 工場では職場改善活動（5S 運動+安全）に加えて、令和 3 年 1 月「健康企業宣言」を行い、令和 6 年 10 月「健康企業宣言 Step1」の認定を継続。
- ⑦ 社員の健康面からの職場環境も整備されています。
- ⑧ エコピープル（エコ検定試験合格者）は、現在総数 9 名となっています
- ⑨ レールの熱処理工程を変更することにより、J R 東日本様から温室効果ガスの排出量の削減が認められ、感謝状を頂いた



VIII 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに苦情、違反、訴訟等有無

1. 関係法令等

	環境関連法規制等名称	遵守状況	確認
1	水質汚濁防止法／浄化槽法	①高岡市との公害防止協定は遵守	適正
2	騒音規制法	①高岡市との公害防止協定は遵守	適正
3	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	①産業廃棄物処理の委託契約書の締結 ②産業廃棄物管理票の報告 ③産業廃棄物の保管場所の看板設置	適正
4	高圧ガス一般則	高圧ガスの貯蔵及び消費の規制	適正
5	有機溶剤中毒予防規則	労働安全衛生法関連	適正
6	エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）	①当社の原油換算消費量は、年間 1500KL 未満のため報告義務はありませんが消費量の低減に努めています。	適正
7	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	① 全体の取扱量でも、年間 221.66kg で報告義務はないが取扱量の低減に努めている。 対象物質の低濃度の材料を使用	適正
8	消防法（火災、危険物）	①法令順守	適正
9	労働安全衛生法	①安全衛生管理者の選出・届出 ②安全衛生委員会の開催 ③化学物質リスクアセスメントの実施	適正
10	国等による環境物品等の調達の推進に関する法律（グリーン購入法）	①カタログのエコ商品の優先購入 ②エコマーク用紙の優先購入	適正
11	高岡市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例	①事業系一般廃棄物が対象となる。 ②発生量の計画書（前年度実績を含む）提出	適正
12	都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	①適合車による納品	適正
13	大阪府グリーン配送実施要領	①適合車による納品	適正
14	公害防止協定 ① 富山県公害防止条例 ② 高岡市福岡町	①施設の届出 ②水質汚濁防止 ③騒音防止策 ④工場内の緑化等の環境整備	適正
15	事業者としての責務関連 ①環境基本法 ②特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（オフロード法） ③地球温暖化対策推進法	事業者としての責務 ○公害防止 ○廃棄物の適正処理 ○リサイクルの推進 ○行政への協力	適正
16	フロン排出抑制法 ①業務用空調機器も対象 工場新設事務所のエアコン ②工場内スポットクーラー	事業者としての責務 ①報告対象規模に達していないが、フロン類の管理の適正化に努めている ②定期的異常の有無を確認	適正

2. 評価の結果法規制等は適正に処理・管理している。

3. 苦情、違反、訴訟等の有無

過去5年間ありません。

有機溶剤、塗料を使用して作業する場合は労働安全衛生法を遵守した。

IX 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 代表者が確認した情報

- ① 第 89 期環境経営目標達成状況報告書（様式 4-3）
第 89 期環境不適合是正処置報告書（様式 10-3）
- ② 第 89 期環境経営計画実施状況報告書（様式 4-6）
- ③ 環境審査指摘処置報告書（様式 12-5）
- ④ 内部環境監査報告書（様式 12-4）
- ⑤ 環境法規制等遵守状況報告書（様式 3-1）
- ⑥ 環境経営レポート（第 89 期）

2. 代表者による評価

① 環境経営計画の取組状況

当社顧客によるサステナブル調達の方針の徹底もあり、当社においても環境に配慮した経営の重要度は増している。コストダウン、環境負荷の低減をねらい、熱処理方法の統一化を顧客に提案し、採用された上、表彰を受けることまでできた。これは、当社の環境に配慮した経営が顧客満足度の向上につながる好事例となり、高く評価している。

② 環境経営目標達成状況

89 期受注は増加、前期導入した新型のコンプレッサーが年間フル稼働することにより電気使用量はかなり減少した。また、節電意識も高まり、細かく消灯することも習慣化してきている。廃棄物に関しては 5S 運動が定着し、突発的に多くの廃棄物が出る機会がなくなり、目標を達成した。コピー用紙の使用量については目標を達成。コピー用紙の裏紙利用やペーパーレス化をさらに進めていきたい。

水資源の節減目標については、当初は融雪水としてのみ使用してきたが、異常な猛暑による工場敷地の冷却水として夏場に大量に使用した結果、目標未達となった。異常気象により目標設定時に想定していなかった使用用途が変化してきた。この異常気象の恒常化が懸念される。

結果として 89 期は、環境経営目標 5 項目中 4 項目を達成した。

世界情勢やエネルギー問題、気候変動など、外部環境の大きな変化も踏まえ、中期計画（5 ヶ年）の目標に全社で取り組みたい。

③ 内部環境監査結果

内部監査は適切に行われている。新たな環境管理責任者のもと、今後とも、個々人の意識を高め活動のすそ野をさらに広げていってほしい。

④ 環境法規制等遵守状況

法令等の遵守は会社の社会的義務である。法に則っていることが確認され苦情等もなかった。今後とも確実に実施し、社内、社外の安全衛生を守っていったらいい。

⑤ 定期審査結果

環境ニュースや朝礼、安全衛生委員会等で審査人からの評価が社員に周知されている。また、昨年指摘のあった公害防止条例への対応も適切に確認され対応されていた。

3. 代表者による改善指示

① 環境経営中期計画(5 ヶ年)について

5S 運動の定着を図り、環境保全にも配慮することがコスト削減にも繋がるものであり、当社の経営基盤の強化に資するものである。引き続き年 1% 低減、過去 5 年含め 10 年通期・10% 逡減を目標として全員参加で取り組んで頂きたい。

② 災害発生に備えて

近年、異常気象・地震等の災害が数多く発生している。災害発生した際の環境への負荷がない様、備えが十分か、再確認願いたい。